

武蔵野の森総合スポーツプラザを紹介します



▲メインアリーナ外観

多摩エリアの新たなスポーツの拠点となる「武蔵野の森総合スポーツプラザ」が、平成29年11月25日にオープンしました。

「武蔵野の森総合スポーツプラザ」は京王線飛田給駅(調布市)から徒歩5分、味の素スタジアムの隣に位置し、最大10,000人以上を収容できる総合スポーツ施設です。

メインアリーナ・サブアリーナでは、国際大会をはじめとする大型スポーツイベントだけでなく、コンサートなどのエンターテインメントイベントも開催できます。

なお、当施設は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、オリンピックではバドミントンと近代五種(フェンシング)、パラリンピックでは車いすバスケットボールの会場になります。

特にサブアリーナは、バドミントンやフットサル、バレーボールなど様々な室内競技に対応しているほか、付属の可動畳により武道場としての利用も可能で、ご予約いただければ一般の方もご利用いただけます。料金表と空き日程はホームページで公開しておりますので、ぜひご確認ください。

サブアリーナ棟の2階にあるプールとトレーニングルームは、予約なしでもご利用可能です。

国内公認の50mプールは、可動壁により25mプールにもなり、様々なニーズにお応えすることが可能です。(水曜日・日曜日は50mプール、それ以外の曜日は25mプール)

トレーニングルームは、ランニングマシン12台、エアロバイク14台、アークトレーナー4台など、初級者から上級者まで利用できる多数のマシンを取り揃えています。



▲サブアリーナ



▲プール



▲トレーニングルーム

プール・トレーニングルームの個人利用について

平日・土曜利用時間	9:00~22:30 (受付終了22:00)	
日曜・祝日利用時間	9:00~21:30 (受付終了21:00)	
休館日	原則毎月第3水曜日	
利用方法	直接来館し、サブアリーナ棟2階の券売機でチケットを購入し、ゲートを通り、プール・トレーニングルームへ	
利用時間と料金	3時間	一般: 500円 (プールとトレーニング併用可) 中学生以下: 250円 (プールのみ) ※中学生以下はトレーニング利用はできません。
持ち物	プール: 水着・スイムキャップ・タオル・ゴーグル トレーニングルーム: 運動しやすい服装・室内用シューズ・タオル	

【問合せ先】 武蔵野の森総合スポーツプラザ
TEL 042-488-8607 FAX 042-488-3633
ホームページ <http://www.musamori-plaza.com/>

[現地案内]

京王線飛田給駅より徒歩5分
西武多摩川線多磨駅より徒歩20分



多摩交流センターだより

第21回 多摩の歴史講座 終了報告

本紙8月号(No.047)で募集した「第21回 多摩の歴史講座」(東京市町村自治調査会・たましん地域文化財団共催)は、200名を超える応募の中から抽選で、50歳代から80歳代の100名を超える受講生の皆様にご参加をいただき、平成29年10月2日から11月20日にかけての月曜日に全5回の講座を開催しました。

この講座は、歴史と文化の宝庫である多摩地域にスポットをあてた連続講座です。

本年度は「武蔵武士団の盛衰」をテーマに、例年行っている見学会は実施せず、第1講から第5講までを講義により多摩信用金庫府中支店会議室で開催しました。

第1講 (10月2日)

「武蔵武士団の誕生」では、首都大学東京教授の鎌倉 佐保氏より、都から移動してくる「武士」について、11世紀半ばに武士団の実質的な祖先が史料に登場してから、12世紀にかけての、白河院や鳥羽院などの院政期に、荘園が再編成される中で、どのようにして土着化していったか、平山などの「名字の地」を持つに至ったかについて講義をいただきました。



▲第1講の様子

第2講 (10月16日)

「考古学研究の立場から武蔵武士団をみる」では、埼玉県立嵐山史跡の博物館学芸員の浅野 晴樹氏から、埼玉県嵐山町や多摩ニュータウンなどの遺跡を例に「武士団の本拠」の典型例の説明と紹介、カワラケや陶磁器などの出土品から見える宴、酒や味噌などの醸造・貯蔵から生活や流通を詳しく解説していただきました。

第3講 (10月30日)

「板碑にみる武蔵武士」では、台東区教育委員会の伊藤 宏之氏より、中世の供養塔である板碑とはどのようなものか、東村山市徳蔵寺や群馬県明王院の源義助の元弘期の板碑を例に、板碑に記された金石文とその背景の考察と解説があり、さらには、板碑に戒名が使われる場合と俗名が使われる場合の違いは、という問題提起もいただきました。



▲板碑(府中市 三千人塚)

第4講 (11月6日)

「南北朝期の武蔵武士団」では、国立歴史民俗博物館准教授の田中 大喜氏により、南北朝の敵対関係を背景に、武蔵武士団の中でも様々な対立や思惑が顕在化した状況や、広域的に結成されてきた武蔵武士団の集合体について詳しく解説していただきました。また第5講につながる白旗一揆の動向についての講義もありました。

第5講 (11月20日)

「室町期の武蔵武士」では、専修大学教授の湯浅 治久氏より、第4講で触れられた白旗一揆をはじめとする武蔵国人一揆の消長から、南北朝期以降の室町期の様々な武蔵武士団の動向や新たな勢力の台頭、荘園や寺社などのあり方まで詳しく解説していただきました。



▲第5講の様子

今回の歴史講座でご講義いただきました講師の先生方、参加されました受講生の皆様には厚くお礼申し上げます。次回も皆様の興味・関心を深めることができる講座を企画しますのでご期待ください。